



教生石

特別  
412  
3670  
3









乃ほり冬夜をもむすはくやと  
思ひん る行よ 雲々のちるりゆく  
きたあなまきづくぐま世に様よ  
建ひおこ心乃たかく城きり川乃  
結ひこめくる下野や明波登み  
しりりしきしりりくわく

なふくあきかまはは俗る石乃

かともへおたちよと結ひる

うもは石おさへあまうき  
ゆ テ うたひなは聖に教ま石

とそ人留のやよをよりにる

下カレ  
かくおさるる——き教ま石とも  
志ろ——めしめては俗る



















他主——てきうわたり調伏乃  
まはらわあはる——と夢はま  
たちまらよ勸画もりりひき  
うへて玉藻化生をもとのまよ  
かひのこまは病ときえ——  
是なるわうやうふまか  
新法方のりりなる人や

三拾

いなるまかりはむ入  
い——へ玉藻おまら  
まら聖乃教主石石魂  
なるわ 善 夢もやあまらお悪  
うははを善心もなる  
志——衣降をまは  
おあ——本舞を二度歌り







ゆえ東教を名の石罌の河まは

所より来わらまかす能しるる

を能くふされく自と心及

ゆを兼佛を佛神志み乃

を方とふらん接方さよ石よ

情ありふよ言ある風の大虚よ

わつるうこち城さう歌りし

石能ふく流ふわるまは石魂色

あつれおつわたりろり也

うきやふは石ふ流よ

光乃うらなましく神の聖平乃

形いあなうさもたうろき

人解なわは何をうはむ

八葉の天竺よりてハ船足た子乃



こゝの神一大有まてハ色主乃后  
ほうーと現ー我わ少をい  
香取院乃玉藻能おもは成くる  
なわ<sup>詞</sup>まよま法をうこぬくと  
うわに遊女能形とかなわ玉舞よ  
ちの<sup>詞</sup>しむままの法能とふ成院  
内教院とせせ水とふあうひ成

詞

あーと照るーあへ乃也寸なわ  
調伏乃ま法わ成りーめ壇り  
ささ乃漁いりをもをこ玉藻よ  
法智成持と法ー行勝をくたき  
い乃わーのい<sup>音</sup>やんそ子舞を  
と家ーしめまづへいをも成  
を法とわとふろみとも井成

イロ







下ふ討ふさうまそ名討ふ敵を  
つこけしふすは野討原乃露と  
清ても於執心冬は豊小踐行て  
教ま石となして人をも成事  
多事なまもあひうさ  
法はなうけこけ及思事成  
心す事さうと法借よ

物束うさき名と成て屋くうく  
うさき名となして鬼神乃海ハ  
う勢よくわ







